

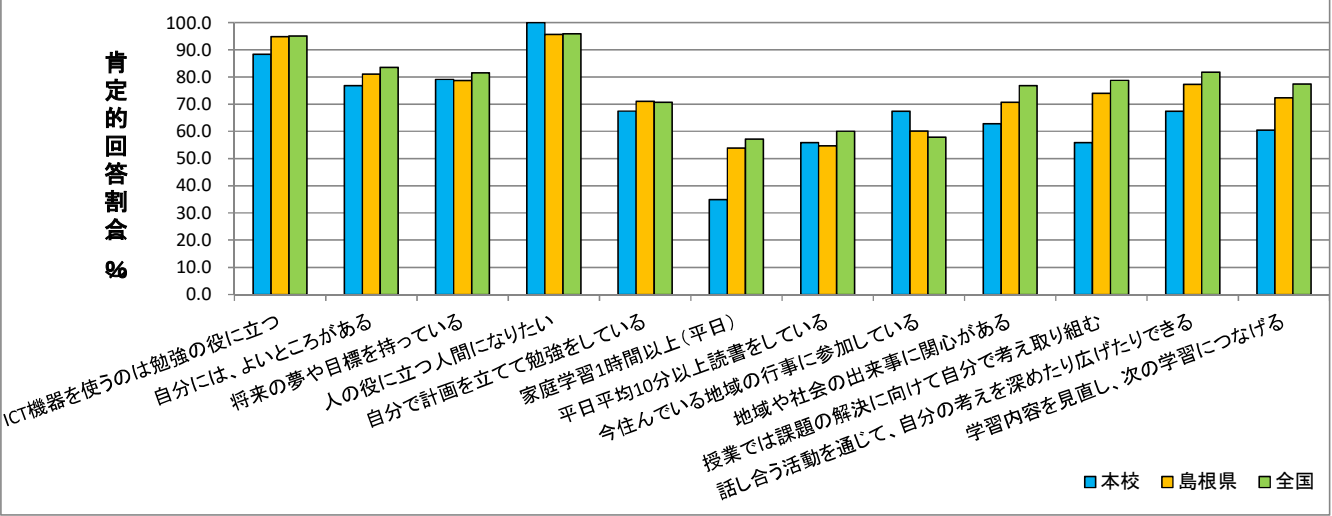
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○知識技能の中でも、言葉の特徴や使い方に関する事項についての正答率が全国平均を上回っている。 ○既習漢字が定着しており、文脈に合わせて正しく使うことができる。 ●話の内容を捉え、いくつかの条件を満たして自分の考えをまとめる設問の正答率が低かった。 ●調査問題終盤での無回答率が高くなっている。	・読書への関心や意欲の向上を図る取組を充実させていくとともに、話の内容を的確に捉え、関連のある情報を整理したり必要な情報を取り出したりする学習を取り入れる。 ・条件を満たして書く活動を意図的に設定し、その指導の工夫と適切な評価について継続して取り組む。
算数	○「数と計算」「変化と関係」領域の正答率が全国平均並みであった。 ○除法の筆算において、各段階の商の意味をよくとらえている。 ●三角形や台形などの性質や特徴についての理解に不十分さがあり、図形に関する設問の正答率が低い傾向にあった。 ●場面に照らし合わせて式の意味を考えたり、二次元の表から条件に合う数を読み取ったりする力に弱さが見られた。	・図形に関して、視覚的に理解が進むようにICTを含めた教具の工夫を考えたり、性質や特徴を繰り返し押さえて定着を図ったりするなどの取組をしていく。 ・問題解決のための立式を考えるだけでなく、様々な解法の式からその意味を考える学習場面を増やしていく。

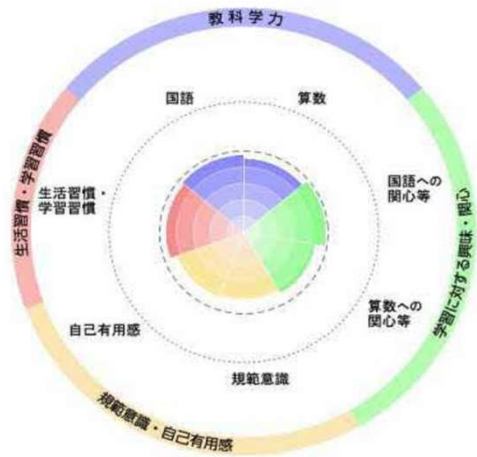
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○定時起床や朝食摂取など基本的な生活習慣が確立している児童が多い。 ○地域の行事に積極的に参加する児童の割合が高い。 ●多くの質問で肯定的な回答が国や県よりも低い傾向が見られる。特に、伝え合いや話し合いにより気付いたり深めたりする活動への意識、平日の家庭学習の時間について、肯定的な回答割合が低い。	・話し合い場面において、自分の考えを深めたり広げたりすることや、資料や文章、話の組み立てなどに工夫して話すことについて、具体的に指導していく。 ・小中で連携した家庭学習への取組が進められるよう体制を整えていく。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・学校の教育活動全体を通して児童の自己有用感を高める。
- ・朝読書や帯タイム学習、書き取り計算会等を継続し、読書習慣や基礎基本の定着を図る。
- ・メディアコントロールについて、PTAと連携した取組を継続していく。

【受検者数】
43 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。